

活力に満ちた「活動都市」をめざして

歴史・文化、産業構造など、お互いの個性を認め合い、尊重し、そして、融合し、それらの相乗効果により、活力に満ちた活動都市「とちぎ」を形成していく必要があります。

◆「都市創造プラン・マイルールとちぎ」の推進

JR両毛線と東武鉄道が交差する栃木駅地区については、新生・栃木市のシンボリックシティと位置づけ、公的機関、福祉、教育、文化、商業施設などの集積を図り、首都圏からも人々を呼び込める未来型ニュータウンとして整備するとともに、JRや東武鉄道の各駅の交通拠点化を図り、駅を発着基点とするコミュニティバスやデマンドタクシーなどの地域公共交通を運行します。

◆公共交通機関の利便性を向上

新幹線やJR宇都宮線との接続の利便性を高めるため、JRなどの関係機関に働きかけ、通勤、通学などの移動の利便性向上を目指します。

市民の生命財産を守る個人住宅につきましても、耐震改修補助制度などの施策を推進します。



◆地域サポート体制の創設

自治会との連携を図りながら、一人暮らしの高齢者や障がい者などを災害時に最優先で援護する地域サポート体制をつくってまいります。

◆安心して住みつけられるまちづくりの推進

定住人口の増加を目指し、定住住宅新築補助制度の拡充や子育て支援住宅への補助制度等の施策を推進します。

◆ごみ減量化

合理的な分別収集を徹底し、資源循環型社会の実現を目指すとともに、生ごみの堆肥化、バイオ燃料化を進め、ごみ減量化に取り組みます。

◆潤いと安らぎのあるまちづくりの推進

潤いと安らぎのあるまちづくり推進のため、街中に残る雑木林や、里山の保全、生垣設置などを促進します。

創造プラン 3

安全で安心して暮らせる「生活優先都市」をめざして

◆下都賀総合病院の再生

下都賀総合病院は、市内の他の病院とともに、二次救急病院として、市民の生命を守る財産であるとの考えに立ち、県や医師会をはじめとした医療団体などの関係機関と連携・協力し、下都賀総合病院の再生に向け、全力で取り組まします。

◆地域医療体制づくりの充実  
下都賀総合病院の再生にあわせて、日常的な診療から救急医療まで、安心できる地域医療体制づくりを進めてまいります。そのためにも、在宅医療や介護予防が有機的に連携できるよう、医療・保健・介護・福祉の分野のネットワークの整備を進めます。



◆市民の健康を守るために

基本健康診査や、がん検診の検診率を高め、早期の治療による重症化を防ぐとともに、小児インフルエンザワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンなど、適切なワクチン接種によって生命を守ることができるとして、積極的に進めてまいります。

◆安心して子どもを生育できることのできるまちづくりの実現

こども医療費の無料化を中学

◆テナントミックス施設の整備促進

中心市街地において、チャレンジショップや創業塾などの起業を目指していただく仕組みを創るほか、中心市街地の核施設として商業施設や文化施設、あるいはコミュニティ施設や共同住宅が一体となったテナントミックス施設の整備促進を目指します。

◆観光都市への取り組み



新生・栃木市誕生を契機に、市民一体で、「観光都市」とちぎをつくる大作戦に取り組めます。

渡良瀬遊水地、ぶどう団地、蔵の街、つがの里など、全国に誇れる観光スポットや、イチゴやぶどうなどの豊富な農産物があり、これらはいずれも魅力ある観光資源であります。



◆かわまちづくりを推進  
新生・栃木市は、悠久の水の流れでつながっており、かつて舟運で栄えたまちでありましたことから、水辺や川の流れを活用した親水性の高い拠点整備を行い、「かわまちづくり」を推進してまいります。

◆農業の振興への取り組み

農業振興の分野では、魅力的で特色ある農産物の生産奨励と、多様な流通・販売システムの確立を進め、農業の振興に努めます。

具体的には、農産物のブランド化の推進、宅配販売、小売店、外食産業などの契約販売、産直販売施設のネットワーク化、学校給食における地域農産物の利用促進などです。

校卒業まで拡大し、保育所の保育時間延長や、学童保育の対象を小学校6年生までとし、幼稚園の延長保育への支援制度を創設するなど、子どもを安心して生育できることのできるまちづくりを実現します。

◆子育てを総合的に支援できる体制を整備

妊娠、子育て、教育など子どもに係る市役所窓口の一元化を図り、子育てを総合的に支援できる体制を整備します。

◆障がい者や高齢者の生活を支援する基盤を整備

障がい者や高齢者福祉の分野では、誰もが自立し尊厳をもって社会の一員として参画し、普通に暮らすことができる、真に優しいまちづくりを推進するために、買い物代行サービスを充実させるとともに、障がい児・者が地域で安心して、安定した生活を送ることができるとして、目指し、児童デイサービス事業所や生涯にわたって暮らすことができる支援施設を設置するなど、の基盤整備に努めます。

◆予期せぬ災害に備えたまちづくりの推進

公立の小中学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす場であり、非常時には、緊急避難場所としての役割を果たすことから、耐震化を推進します。

また、県が推進する「フードバレー構想」に参加し、地域農業と連携する食品産業の誘致・育成に積極的に取り組みます。

◆産業集積拠点を整備



地域経済の活性化、企業誘致等の分野であります。新生・栃木市は、東北自動車道、北関東自動車道、さらには、国道50号線等の基幹的幹線道路と鉄道が結節する位置的優位性を有しており、これらを活用した「物流を核とする産業交流都市構想」の調査研究を即刻進め、産業集積拠点を整備してまいります。

そのため、既存産業団地への新規企業の誘致を促す支援施策を創設するとともに、本市の優位性を活かした新たな産業基盤の整備を進め、優良な企業誘致を進めます。

創造プラン 5

あなたが創造する「未来都市」とちぎ

この創造プラン5は、広く市民の皆様からご提案いただいたものであります。

既に、市民の皆様からは、学校給食費、小児インフルエンザ等のワクチン接種、市役所の建替え等に関しまして、貴重なご提案をいただいておりますが、創造プラン全体は、今までにいただいたご提案と1から4の創造プランをもって、すべて完成ということではございません。

今後とも、市民の皆様、議員の皆様からご意見やご要望をいただいたながら、皆様と一緒に創造プランを創り上げていきたいと考えております。

◆「自然・歴史・文化が息づき、生活者にやさしい自立都市『とちぎ』」を創っていくことを、あらためてお誓いします。

副市長に 手塚 和男氏を選任



鈴木市長は、6月市議会定例会で同意を得て、手塚和男氏を副市長に選任しました。

手塚氏は、県議会事務局議事課主幹、県総合政策課秘書室長を歴任、今年4月から県広報課長を務めていました。

県政発展のため、永年ご尽力され、行政全般に精通されている手塚氏が、7月1日(木)から、副市長として、市長を補佐するとともに、新生・栃木市発展のため、政策・企画の立案等を行います。



7月1日、市長から辞令を受ける手塚氏